

赤木城(国指定史跡, 続百名城)(熊野市紀和町赤木)(赤木城公園)

藤堂高虎によって天正 17 (1589) 年頃、反対勢力を抑える目的で築城されたとされ、主郭を中心とした三方の尾根上と裾部に郭を設けています。尾根を利用した郭配置は中世山城の様相を引き継ぐ一方で、高く積まれた石垣や発達した虎口など近世城郭の要素も見受けられます。

平成 4 年には保存管理計画が策定され、平成 16 年までの 13 年間にわたって、石垣の積み直しや遊歩道の設置などの維持整備を行い、復元作業を行ってきました。

また、あわせて平成 7 年から 15 年まで発掘調査が行われ、天目茶碗や砥石、釘などが出土しました。

生まれ変わった赤木城跡は、長い歴史が持つ厳かな佇まいの中にも、美しく整備され誰もが気軽に遊びに来られる親しみやすさも感じられます。

その最上部に位置する主郭から眺める町の景色は、後ろには深い山々が、そして目前には棚田が目を引き赤木地区の昔ながらの風景が広がっており、どこか懐かしい思いが胸をよぎることとされます。また、一面に桜が植栽され、春には美しく赤木城跡を彩ることでしょう。

主郭は約 800 平方メートル、南郭 375 平方メートル、西郭約 80 平方メートルとなっています。

石垣は野面乱層積み(*1)で反りがなく、主郭の四隅は、算木積み(*2)と横矢掛りの後方を用いています。

平成元年 10 月 9 日には国指定史跡に指定されました。

(*1)野面積み・・・自然のままの石で積んだ石垣

(*2)算木積み・・・石垣の隅角はもっとも重要な部分なので、直方体の石の長辺と短辺を交互に積んだ石垣

主郭

最高所に位置しており、高さ 4 m ほどと高く、石も立派なものが用いられています。

主郭には随所に横矢掛りという、敵を側面から攻撃するための張り出しが設けられています。

虎口

郭の出入り口を指し、赤木城跡では敵をふさぐために通路を何度も折り曲げた複雑な構造になっています。

東郭

入り口から石段を上った最初に見える箇所です。

最初に敵を迎え撃つ場所となっています。

西郭

礎石建物や石組み遺構があります。この石組み遺構は食べ物などを貯蔵する施設か水溜(みずため)ではないかと考えられています。

南郭

他の郭と比較すると低い位置に存在しています。

これは他の郭が防御の役割を担っていたのに対し、この郭は生活の場であったと考えられています。

かまど跡や播り鉢、貝殻も出土しています。

熊野市教育委員会による

